

# 託児付きシェアオフィス開設

## 総合物流のホンダロジコム



施設内の託児室「ニコフレンズ長久手」



本多敦社長

見守りサービス×コワーキングスペース「FLUP HOUSE（フラップハウス）」（長久手市上川原6の7）は、床面積約300平方メートルで、コワーキングスペースは原則20人が同時に利用可能（うち託児施設と

## 長久手市 多店舗展開も視野

総合物流サービスのホンダロジコム（本社春日井市、本多数社長、電話0568・56・8893）は、長久手市に女性専用の託児サービス付きシェアオフィスを開設した。子育て中の女性の労働環境改善を雇用主の企業に提案し、リモート勤務の効率向

上や育児離職率の抑制、採用活動での福利厚生アピールなどに役立ててもらおう。「東海3県では多分初」（ネオバリュークリエーション部）の試みになるという。2年以内に新事業で単独黒字化を目指す。

（尾東・山岡賢彦）



「FLUP HOUSE」のコワーキングスペース

同時利用は原則上限8人。施設の一角に設けられた託児スペース「ニコフレンズ長久手」は常駐する3人の保育士資格者が、原則上限8人の子どもを見守る手厚い態勢が特徴だ。リモートワークなどの勤務形態の女性が子どもの世話に追われることなく仕事に集中でき、また、いつでも子どもの様子を見られる

など利便性が極めて高い。「若い街であり子育てで支援も手厚い長久手市を始め、近隣の名古屋市長久手市名東区などにもこの仕組みに適合する女性が多い」（ネオバリュークリエーション部）との観点から、第1号施設の開設地に同所を選んだ。託児サービス付きシェアオフィスは、新事業であると同時に「SDGs的地域貢献の一環」という。施設は内外装とも白木の木材を多用し、家具や設備を北欧製でほぼ統一するなど「くつろぎ空間」を演出した。オフィス機能面では自由に利用できる大型モニターや電話・遠隔会議用の個室ボックスなどを設置している。休憩用のソファ類や雑誌などをそろえた図書コーナーも充実している。また、一角にはキッチンスペースも設け、自分と子

ども用の食事の用意も可能だ。ほかに授乳室や子ども用トイレなど子育てに必要な設備をほぼ網羅している。利用時間は原則として午前9時～午後5時だが、短時間なら延長利用も可能。雇用主が払う利用料は1人当たり月額9万円。同社は第1号施設の状態を見ながら今後も新施設の開設を視野に入れており、同社の関東地方の拠点が立地する相模原市などが有力という。